

地域医療構想調整会議の議事概要 報告書

(海田・芸北) 地域保健対策協議会

会議の実施日時	平成28年9月2日 19:00~20:10 平成28年度 第1回
<b>議題1 (法定会議への移行等)</b>	
○ 資料1の事務局案を了承	
<b>議題2 (平成27年度 病床機能報告の結果について)</b>	
○ 調査結果の受止めについて ・ 6年後も横ばいという調査結果だが、診療報酬とか制度設計がどうなるか分からないということで横ばいのような気がするが、県は、どのように考えているか。(委員) ⇒県としてもそのように受け止めている。(事務局)	
<b>議題3 (地域医療介護総合確保基金を活用した病床転換支援について)</b>	
○ 病床転換支援補助の募集方法について ・ 回復期機能が足りなくなるので、それを充当するための病床転換補助政策をされるということは分かったが、どのような募集要項で、募集をどのようにされるのか提示していただきたい。(委員) ⇒9月から10月にかけて、県の補助制度について、どういった病床機能の転換に対して、どれぐらいの補助を行うということをお示しした募集要項を制定して、各医療機関の来年度の病床機能の転換をする意向をお聞きしたいと考えている。対象としては、病床機能報告の対象になる医療機関について、広く募集をかける。(事務局)	
○ 地域医療介護総合確保基金の規模について ・ 基金を活用した事業提案を求めていくということだが、その予算組みは、どれぐらいの予定で考えているのか。(委員) ⇒地域医療介護総合確保基金については、今年度、病床機能の転換分で8億円積んで現状14億円となっており、来年度以降も積み立てる予定としている。(事務局)	
○ 回復期病床の診療報酬引き上げについて ・ 回復機能が不足しているということだが、診療報酬が回復期に有利なようにならないと、転換してもやっていけるかという不安があって、難しいかなと思う。診療報酬の方の見込みはどうか。(委員) ⇒診療報酬の本格的な議論は来年度になるかと思うが、推測としては、回復期の診療報酬が引上げられるような方向であろうと思っている。このため、将来的に転換が現実的に進み出したときに備えて、それに対応できるよう財源を確保していきたいと考えており、また、国に対しても要望し、国費の確保に努めている状況である。(事務局)	
○ 病床転換に係る地域医療構想調整会議での協議について ・ 回復期病床に転換することは、この会議の議題になるのか。この会議で協議しないと許可されないのか。回復期病床に転換することは、各医療機関の自由ではないか。この会議は、あくまで調整することが主体の会議だと思うがどうか。(委員)	

⇒地域医療構想の必要病床数をにらみながら、圏域全体の病床機能をどのようにしていくかは、調整会議の協議事項の一つであり、各医療機関の役割分担をどのようにしていくのかというのも、調整会議の協議事項である。それを踏まえて、医療機関の個々の病床転換についても、調整会議の方で協議いただき、オーソライズしていく調整のための場である。(事務局)

○ 各地域の病床転換の状況等について

・地域医療構想の中での病床機能を、回復期へというのは、非常に難しいと思う。なかなかこの病院も苦しくなってやっており、今すぐ、数がどうのこうのではなく、ちゃんと時間をかけて、やっつけなければいかなと思う。(委員)

・海田地対協の中では、安芸市民病院が今年4月から包括ケア病棟12床を26床に上げられ、マツダ病院が54床、済生会広島病院も50床地域包括ケア病棟を取り入れられたりして、少しずつ急性期病棟から転換されている。平成30年度に診療報酬が介護報酬と同時改定になるので、それを見ながら病院もそれぞれのドクター、あるいは看護師、あるいはスタッフの問題等、考えながら転換されていくのではないか。(委員)

#### 議題4 (今後の進め方及びスケジュールについて)

○ 資料3の事務局案を了承

#### その他

会長の指名を受けて、各副会長が意見陳述した。

○ 二次医療圏の調整について

・地域医療構想区域に対しては二次医療圏の問題とかなり関わってきているので、こちらの方は十分な調整が必要で、患者さんの流れとか、病床がどれだけ必要かとかいうふうな検討が必要で、今後、集中していくべきじゃないかと思う。(副会長)

○ 急性期医療の取組について

・今、いわゆる急性期の患者さんというか救急患者について、特に整形外科などが問題になっており、今後、”外傷センター”のようなものができて、各病院が取り組んでいただければ、地域の皆さんも助かるのではないかと願っている。(副会長)

○ 中山間地域の医師配置について

・安芸高田市は三次・備北圏域と安佐医師会の安佐市民病院との間にあり、人口は3万人で、三次中央病院と安佐市民病院の影響を受けて、吉田総合病院がどういう病院になっていくのか注目している。病院規模が小さくなれば、勤務医の医師も中堅クラスがいなくなって研修医程度の先生となって病院のレベルが落ちてくる。その意味で、病床ばかりでなく、医師の配置も考えていただかないと、中山間地域の医療が苦しくなっていく。その辺のところをよろしく願いたい。(副会長)